

運営諮問会議



第八回奈良教育大学 運営諮問会議について

広報室

第八回奈良教育大学運営諮問会議は、平成十五年二月六日（木）開催の第七回運営諮問会議に引き続いて、五月十五日（木）午後、本学大会議室において開催されました。

今回は、前回に引き続いて、平成十六年度から国立大学法人への移行が想定されることから、大学内で検討中の「奈良教育大学の中期目標・中期計画（案）」について報告し、審議いただきました。会議には、内田弘保日本育英会理事長、金森順次郎国際高等研究所長、久米健次奈良女子大学長、永井順國女子美術大学教授、藤田康子奈良県立北大和高等学校長、前原金一（株）住友生命総合研究所会長、南浦純一郎（財）奈良県文化事業団副理事長、横須賀薫宮城教育大学長の委員八名（一名欠席）が出席し、本学からは、学長、副学長（総務担当）、副学長（教学担当）、附属図書館長、事務局長ほか各種委員会委員長等が出席しました。

の説明が行われ、その後、活発な議論をいただきました。各委員からの主なご意見・ご指摘は次のとおりです。

- ・ 学士課程、大学院とも、教員養成についてはバーフェクトに書かれているが、教員養成としての得意分野を記載してほしい。また、総合教育課程のニーズについても記載をお願いしたい。
- ・ 前回と比較すると今回の中期目標・中期計画はかなり整理され、躍動感を感じる。
- ・ 大学評価・学位授与機構の評価が行われているが、評価についての議論はされているのか。
- ・ 国際交流の実態はどのようなものか。留学生はどのような目的で奈良にやってくるのか。奈良をどのように説明されているのか。
- ・ 留学生に、奈良であればこそ、日本の勉強ができることをはっきりと言われたほうがよい。

ある大学のカリキュラムでは、留学生用の授業科目に日本人学生も参加できるように工夫をした。奈良教育大学でも、留学生と日本人学生が一緒に受講できるカリキュラムの検討が必要ではないか。

- ・ 奈良教育大学独自のものが必要。例えば、教育実習期間の延長等はどうか。
- ・ 高等学校としては、教育実習生はお断りの傾向。
- ・ 教育実習は日本国内でしかダメなのか。
- ・ 日本の大学は、留学生を卒業させた後、日本での就職については考えていないことが問題である。
- ・ 日本にくる留学生は優秀な留学生が多い、日本で就職し活躍してもらってはどうか。

- ・ 教育学部はどこでも同じといわれるが今後、附属センターの活用が必要となってくる。
- ・ 日本の大学制度とアメリカの大学制度の違いはセンター機能の違いによるところも大きい。
- ・ 教員と職員の一体的な運営をどのように進めていくかが課題となる。

以上のような活発な議論に続き、現学長が平成十五年九月三十日付けをもって任期が満了する旨の報告があり、企画委員会委員長より「本学の学長選考」について説明が行われ、最後に学長から、「中期目標・中期計画（案）」については先ほどのようなご意見、ご指摘を生かしながら、引き続き学内での検討を進めていきたいとの挨拶をもつて閉会となった。

今回の第九回運営諮問会議は年内に開催を予定しており、その折に本学の最終的な「中期目標・中期計画」についてご報告させていただくこととなりました。